

# うたごえ新聞

12/20

(1993年)

NO. 1467

THE SINGING VOICE OF JAPAN (UTAGOE)

日本のうたごえ全国協議会機関紙  
うたごえ新聞社  
〒167 東京都新宿区大久保2-16-36  
☎03(3209)0638 FAX03(3200)0105  
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行  
1部120円・税4円(〒26円)・月480円・税15円(〒120円)

## 自由と平和の 歌声 45周年

日本の  
うたごえ祭典  
特集

大音楽会 4~7面



# 若いエネルギーあふれ

千葉ポート・アリーナのステージいっぱいくりひろげられるサンパのリズム、祭典神輿(写真上)。青年のあふれるエネルギーがフィナーレを飾った四十五周年日本のうたごえ祭典(十二月四、五日の二日間のべ一万人)。



(3000人)。  
一日目夜、特別音楽会(府中どりむホール)は祭典初の労働者男声合唱団の演奏、ゲストの井上頼豊(チェロ)、小濱妙美(ソプラノ)両氏、日本のうたごえ記念合唱団、合唱組曲(希望へのエペール)を演奏(1500人)。  
五日の大音楽会は、開催地地元千葉の「銚子まつりばやし」「銚子大漁節」の庄巻のオープニング。実際にぞう列車を走らせての(ぞう列し)合同(写真右)など、若

いエネルギーがあふれた(5000人)。号より祭典特集で紹介。  
45周年日本のうたごえ祭典は左記のメンバーで取材(記事) 石川道彦(彦) 砂賀佳宏(佳) 西江豊成(西) 福島素司(F) 三輪純永(純) 飯塚頼夫(頼) 内野 敦(内) 岡原 進(岡) 中尾 孝(中)

今年、企画が立案された時、青年がフィナーレを飾れるだろうか? と誰しも半信半疑だった。しかし、一人、二人とその輪は広がった。一人ひとりの情熱は五百人の青年の心をつき動かす、フィナーレに花咲いたのだった。  
☆ ☆ ☆  
昨年、横浜アリーナでフィナーレを飾った「ぞう列し」は、今年、さらに夢を広げ、首都圏に二本の臨時列車を走らせ、千人が、この列車で大音楽会に乗り入れた。  
JRの首切り撤回を闘う国鉄門司金曜レールは全国の国鉄の仲間のカンパに支えられて上京。みごと合唱発表会入選を果たした。  
☆ ☆ ☆  
参加人数は例年に比して小粒だった今祭典。しかし、そこには一人ひとりの人生を重ね合わせたドラマがいくつもあつた。五年後、十年後につながる新たな芽、確かな息吹を伝える四十五周年にふさわしい祭典だったといえよう。(F)

